

(臨床研究に関する公開情報)

長崎医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合やお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

橈側皮静脈カットダウン法による中心静脈ポート留置術の有用性についての検討

[研究責任者] 長崎医療センター 外科 医師 池田貴裕

[研究の背景]

静脈栄養のルート確保目的や、化学療法の投与経路の確保目的に中心静脈ポート(以下、CV ポート)の需要は増えています。CV ポートのアクセス血管に関しては、11693 例を集計した 2016 年の Shiono らの報告では、鎖骨下静脈(69.2%)、内頸静脈(19.9%)、上腕静脈(8.8%)、前腕静脈(1.1%)、その他(1.0%)となっており、施設や術者間で異なるのが現状であり、上腕静脈(橈側皮静脈、尺側皮静脈)からの CV ポートは広く普及しているとは言えません。

2017 年、医療事故調査支援センターより「中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析」が報告され、CV ポート留置術施行時にも安全性向上が求められております。CV ポート留置術における合併症としては動脈穿刺(5%以下)、気胸(鎖骨下静脈穿刺：0.5-2%、内頸静脈穿刺：0.2-0.5%)などが報告されており、決して無視できる頻度ではありません。橈側皮静脈カットダウン法では、穿刺手技を伴わないため動脈穿刺や気胸は起こりえませんが、2019 年に発刊された CV ポートに関するガイドラインでも内頸静脈、鎖骨下静脈、上腕静脈のアクセスがともに推奨されているのが現状です。

本研究では、2021 年より当院で施行例が増えている橈側皮静脈カットダウン法について、内頸静脈穿刺法、鎖骨下静脈穿刺法と比較することで、その有用性について検証し、今後どの方法が望ましいかを検討することができると考えております。

[研究の目的]

橈側皮静脈カットダウン法で行った中心静脈ポート留置術について、他の方法(内頸静脈穿刺法、鎖骨下静脈穿刺法)で行った群と比較し、有用性について検討することです。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

西暦 2021 年 4 月 1 日から西暦 2023 年 3 月 31 日までに長崎医療センター外科で CV ポート留置術(内頸静脈穿刺法、鎖骨下静脈穿刺法、橈側皮静脈カットダウン法)を行った患者さん

●研究期間：倫理審査委員会承認日～西暦 2023 年 3 月 31 日

●利用するカルテ情報

① 臨床所見（年齢、性別、身長、体重、診断、化学療法歴、PICC 挿入歴）

② 周術期所見（手術内容、出血、手術時間、合併症とその重症度）

③ 画像所見（CT で橈側皮静脈を同定できるか）

④ 予後（観察期間内でのポート抜去の有無）

●検体や情報の管理

情報は、長崎医療センター内で集計、解析が行われ、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。この研究は、長崎医療センターのみで行われます。

[個人情報取扱い]

研究に利用する情報は、お名前、住
用の番号を付けます。また、研究用

責任

情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。研究成果は学会や学術
雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。

[問い合わせ先]

国立病院機構長崎医療センター

外科 池田貴裕

電話番号：0957-52-3121（代表）